

海外サッカーにおける3人目の動きの重要性

木本 啓太 (競技スポーツ学科 コーチングコース)
指導教員 山田 庸

キーワード：運動量，動きだし，連動性

1. 緒言

近年ではパスサッカーが重視される一方、素早いカウンターからゴールを決め相手に支配されても勝つチームもある。3人目の動きは、オフ・ザ・ボールの動きに含まれる(村松, 2014)。また、石田(2014)は、3人目の動きについて、ボールを持っていないときに、いかに意識して周りの情報を収集し、どれだけ準備しておくかが重要である、と述べている。

このように戦術的に重視されている3人目の動きについて、松本ら(2015)はスペインのfutbol7の戦術を分析している。しかし、3人目の動きに着目し、11vs11ゲーム中のプレースタイルの違いとの関連性を検証した研究は見られない。

そこで本研究では、ボールポゼッション率の異なるチームにおいて、3人目の動きからのシュートおよびシュートに至る前のプレーを検証し、3人目の動きの特徴と重要性を明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

スペインサッカーのリーガエスパニョーラのFCバルセロナ、レアル・マドリッド、アトレティコ・マドリッドの3チームにおける2015-16シーズンのリーグ戦ホーム&アウェイの合計6試合を対象試合とした。対象試合で行われたシュートに至る前のプレー種類全158プレーを調査対象プレーとした。リーガエスパニョーラでの公式映像を観察し、3チームの得点シーンを見て3人目の動きから決まった得点シーンを14項目に分類し比較した。

3. 結果および考察

3チームの共通点としてカウンター、ロングパス、ペナルティエリア、ロングシュートが少ないことが明らかとなった。スペインリーグのトップ3のチームが対戦することで、よりゴールを確実に狙っていることが示唆された。3チームの相違点について、FCバルセロナは3人目の動きが多く相手のペナルティエリアでのシュートが多いが、レアル・マドリッドはカウンターからのサイド攻撃を多く使っており、ア

トレティコ・マドリッドは攻撃から守備への切り替えが速くこぼれ球をシュートに持ち込んでいることが示された。

3人目の動きを活かすポイントとしては、相手陣内のペナルティエリア付近でボールを回し相手のマークの混乱を誘うことで、よりゴールに近い場所でシュートを打つことができると推察された。

3人目の動きが多いチームはシュートの数が多く、よりゴールに近いペナルティエリア内でシュートを打つことが出来るので、よりチャンスシーンを作ることが出来ると考えられる。また、3人目の動きが少ないチームも自分たちのチームの特徴を活かし戦っていることがわかった。

4. 今後の課題

今回の調査対象は6試合と限定的であり、さらに多くの試合を分析する必要がある。

引用・参考文献

- 石田英恒 (2016) サッカークリニック 10月号 (2014). (<http://coachunited.jp/column/000241.html>) (アクセス日: 2016/09/29)
- 松本直也(2011)スペインにおけるfutbol7に関する戦術的分析. 桃山学院大学総合研究所紀要, 41: 297-310.
- 村松尚登(2014)最速上達サッカー オフ・ザ・ボール. 成美堂:東京, pp. 12-62.

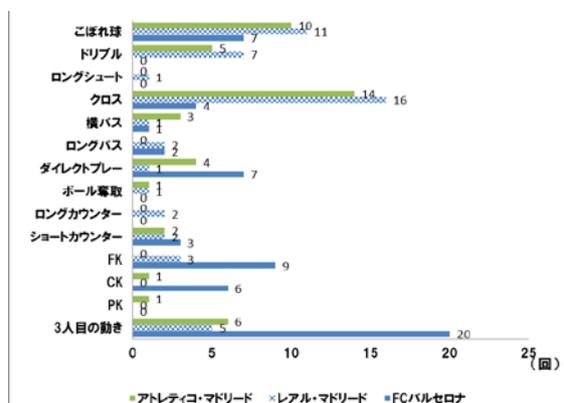


図1 3チームのプレーの種類合計(N=158)